

# 甲南ルート の 遭難 に 関して

信大山岳会 長野山岳部

## I 遭難の経緯

江白巻 SL 中野 他 23名

正 伊藤 本部員 2名 教養部生 6名

石田 工学部 顧問 (通信科教授)

若井 田教授

橋本 (元部員)

遭難の原因は基礎技術をみたく、主にフリークライミングにおいて

遭難日 10日

遭難場所

遭難経路: 羽沢ヒコツテ、木村小屋

遭難者 金 (工学部)  
西 (教養)

## II 遭難の経緯

遭難者	遭難場所	遭難時刻	遭難状況
金	羽沢ヒコツテ	10時	行動
西	木村小屋	11時	次殿
金	木村小屋	12時	行動
西	木村小屋	13時	〃
金	木村小屋	14時	〃
西	木村小屋	15時	〃
金	木村小屋	16時	次殿
西	木村小屋	17時	行動
金	木村小屋	18時	〃
西	木村小屋	19時	〃

## III 経緯

遭難者2名は木村小屋で1日滞り3日に羽沢に入った  
 遭難者4名は  
 1. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 2. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 3. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 4. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 5. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 6. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 7. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 8. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 9. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、  
 10. 前橋、東横線、奥又池より、東横、西横、後谷クラック、

## IV 経緯

遭難者1名は前橋から流し橋尾  
 遭難者2名は前橋から流し橋尾  
 遭難者3名は前橋から流し橋尾

- 4日 L.加藤, 扇能, 安内, 栗林, 渡合, 牧田  
 B.C → 5.6のコル → 又白池 → A沢 → 前穂 → 奥穂 → B.C
- 5日 L.加藤, 安内  
 B.C → 北穂 → 南岳 → 穂平の小舎
- 6日 小舎 → 雄滝 → 滝滝 → C沢左保 → 北穂 → B.C
- 7日 次殿
- 8日 L.加藤, 青木, 栗林, 佐藤  
 B.C → 5.6のコル → 3.4のコル → B.C
- 9日 L.加藤, 大野  
 甲高ルート 途中墜落

注 5日, 6日の行動は, ビバーク体制でシコラフを持たずに出した  
 が, 雨のため小舎へ逃げこみ治る。  
 雄滝ではルートを誤り時間を食う。  
 又, オニ尾根より北穂の予定が, 取りこぎが良くわかず, こ  
 こでも時間を食い結局C沢左保よりB.Cへ帰る。P.M.6 突如大雪  
 6日のコースタイム  
 6:45 小舎 - 8:00 雄滝 - 12:00 滝滝 - 13:30 D沢左保 - 14:30  
 C沢左保 - 18:00 B.C  
 8日は, 甲高ルートの予定が雨のため中止となり, 北尾根3峰  
 の上げ人待ちや下候のため3.4のコルよりB.Cへ

(木) 秋山合宿の取り組み態度  
 計画書のC.Lの言葉より引用

「秋山合宿に木だった

秋山合宿が2年間のづらぐらをまわって行われることになった。  
 遭難以来, 秋山合宿は岩に閉じ込められておられた。そのリ  
 ンクの中で, 大勢の秋山合宿生は物見屋以外の登攀でもっともあな  
 く, 秋山合宿が目指すオールラウンドの山行も欠けたまものと存  
 づりした。  
 今秋は, 岩登り合宿を年間計画に組み入れ, 穂高のゲレンデ  
 が岩登りの基礎技術, 練成を目標にした。  
 我々リーダー会は, 各自の實力, 先輩の足跡などを参考にし  
 て, 従来の遠谷, 舟小に奥又, 扇能を加えて期待と不安を  
 まわってスケジュールを立てた。

滑りわたった秋空のもと, 穂高の岩を登る快感は, 言ひ難い  
 しかし, 一瞬の不注意が大事に結びつく。準備は怠りなく,  
 冬への面にシコラフが小る覚悟を必要とするだろう。  
 新人は夏山縦走を終え, さマニ小うらだ。  
 旧人も自分の山行にみぎをかけよう。  
 試験が終ると新雪のナカマドの相沢へ夢と期待と不安を持  
 って。

主将 向後利彦

11月1日

加藤のシニールをおろかじめ発表し、岩場の研究、秋山合宿  
の現場を計った。  
加藤のシニールについて第2案を考えたが、中央カンテ、新村  
の案については予定者の片方でも条件に合うものを採りつづ  
めた。  
加藤のシニールと連絡を密にとり為ルートを集約的にした。

11月2日

豊科、教育、工学部、教養医、農学部  
工学部、教育学部  
尾根、監督、コ-42名その他  
伊藤、松本、山田、木下、小島、OB

11月3日

9月28日  
加藤のシニール後の各自のバランス、調子を知り、又とりきり事  
案を考えたが、参加者が10数人と少なかった。

11月4日

10月29日

11月5日

加藤のシニールによるズラなし、小で事故をなくす様努力し、きび  
加藤のシニールに臨んだが、加藤の死をもって、全ての面について反  
加藤のシニール、  
加藤のシニールだったのである。

KE5 = 54

# I 報後の行動



- 破線 駒井
- 一点鎖線 向後 吉野 新谷 橋本
- 二点鎖線 新谷
- 三点鎖線 吉野 陶川
- 遺体発見
- × 遺体確認地点

- 現場 加藤君の滑落を目撃  
 駒井 幸徳でD沢下降 加藤君を確認できず 5.6 → 4.5  
 橋本 4峰パーレーへコール
- 駒井, 破田, 新谷, 牧田 の順で台流  
 駒井 4.5
- 駒井 コーブル届く
- 駒井 現場へ戻り  
 駒井 幸徳 2名を fixして 4峰下降
- 駒井 現場へ  
 駒井 幸徳の発信により 遺体確認の報入る  
 駒井 トランシーバーを駒井に渡して 向後 吉野 幸徳 D沢下降 (2:20 現場)
- 駒井 幸徳 発信 届く  
 駒井 破田 幸徳 5.6のコール  
 駒井 4.5のコール 駒井 幸徳 駒井 幸徳  
 駒井 幸徳 B.Lへ戻る。
- 駒井 幸徳 立命館大学山岳部員3名により 確保された T.A.  
 駒井 幸徳 駒井 幸徳のコールを ストップする。  
 駒井 D沢の台流より 5.6を經由して B.Lへ

3:00 吉安 陶川を5峰リッジよりおろす。  
トランシーバー体勢確立  
現場 — 4.5のコル — BC

3:30 橋本現場へ  
青木 陶川、伝令を持たせ BCへ  
5:00 BC 扇野より下へ連絡

内容

加藤 一作 10月9日 正午頃 北尾根 四峰甲南ルート  
より滑落、午後3時 新谷 向後、吉安、青木で確認  
即死。百瀬監督、遺族 DB関係、警察 宇都宮昭義  
現役(SAC) 学校関係

4:00 井原、安間 シュラフ、ギヤール、三つ道具、医療品、サスペン  
ダーを持って4.5へ。安間 4.5へ残留、駒井、  
井原、5.6より現場へ。吉野 夕食を持って4.5の  
コルへ。

5:30 新谷、向後、吉安、橋本、現場より下降  
遺体収容と明日に決定

途中 駒井、井原と合流 5峰リッジにサスペンダー  
シュラフを予備

7:00 5.6のコル

30 4.5より 5.6へ 安間、吉野 夕食をとり一服する。

8:10 B.C 帰天 夕食  
以後の行動を決定

① 松本へ現状報告 吉野

② 西条屋の手配 大谷

③ B.C. 残留 L 井原、佐藤、井口、陶川、牧田、森下

④ 五峰ピーク 大野

⑤ 四峰取りこみ 栗林

~~...~~ 上. 新谷, 駒井, 向後, 市野, 小林, 吉尾, 扇能, 青木  
榎, 安内, 橋本

~~...~~ ⑥ - ④ ③  
... 保を至り上高地へ

~~...~~ 他はシヨラフにもぐる

~~...~~

~~...~~

~~...~~ 吐酸地跡 (④⑤⑥) 出発

~~...~~ 吐酸地跡 野 5時入

~~...~~ ⑥ 14時入

~~...~~ 出発

~~...~~ 吐酸地跡 取付時 体勢正す

~~...~~ 吐酸地跡の下  
吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡  
吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡  
吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~ 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~ 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~ 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~

~~...~~ 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~ 吐酸地跡

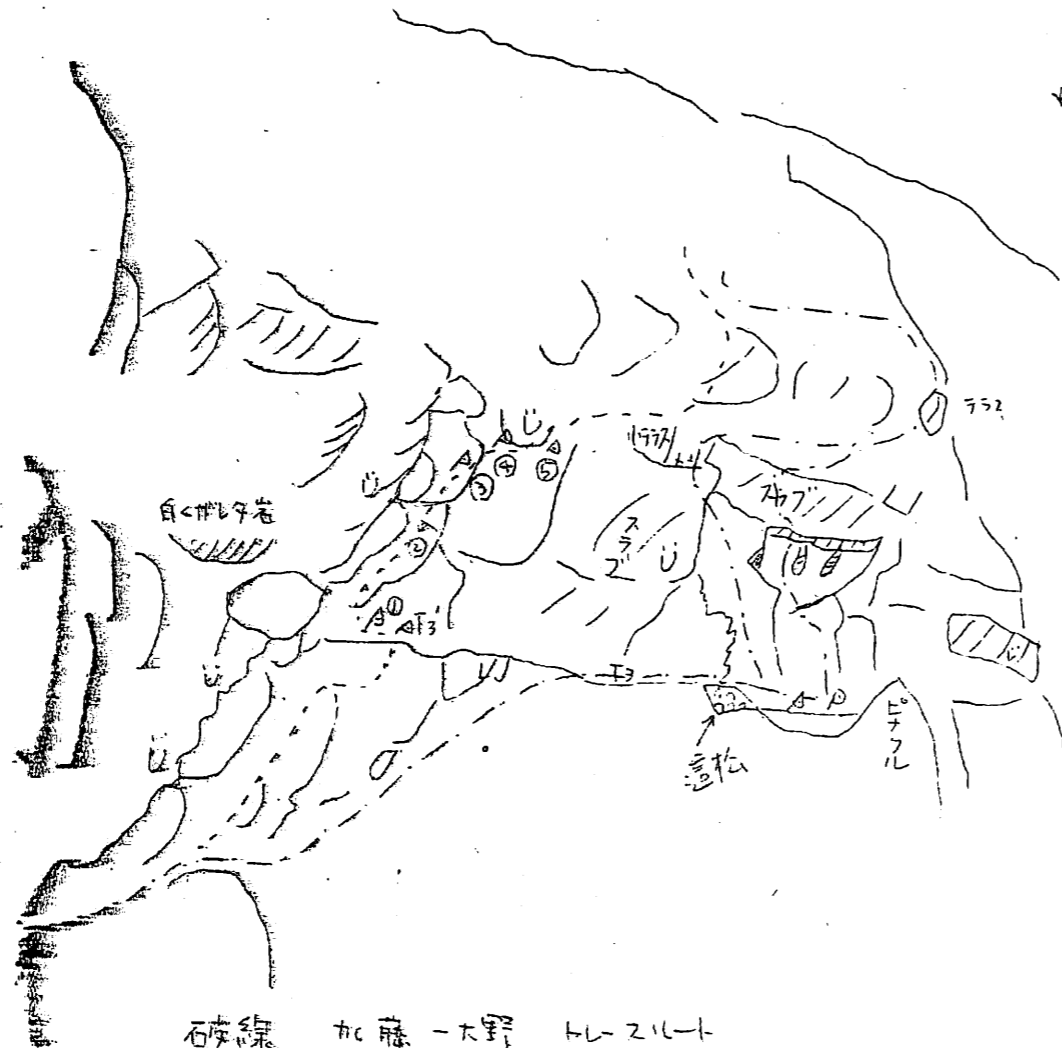
~~...~~ 吐酸地跡 (吐酸地跡) 吐酸地跡 吐酸地跡

~~...~~ 吐酸地跡 吐酸地跡 吐酸地跡





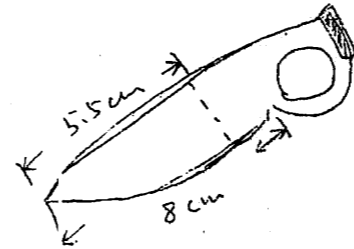
甲南ルート



破線 加藤 - 大野 トレズルート  
点線 ルルルルート

- アブミ 2段 1% (アサギ) ①
- 麻 ②
- ビナ 10
- ハンマー 2

(2) ハーケンが投げる



立2ハーケン 秀山荘 かなり右し  
投げる時のきずがなかったことにより残りきいて  
いたが、先行 party は使用、加藤、ハンマー  
で確かめさせた。

(3) ハーケン ②にピナ2枚 ③に1枚 ④にはアブミを  
⑤にはアブミ ⑥を付けて降り ⑦を回収又は、7ルートを直  
す瞬間、バランスをとり、ハーケンが投げる。④⑤にはア  
イルが通っていないが、⑥にはシヨウワガガガ、アイルが通れる  
③~⑤は3m、落下距離約5m。③~⑤の長さ、加藤  
のセイルグストについていたアイルの長さ一致。④の長さは15m  
④⑤のうちどちらかにアイルを通すためのピナは  
3本のピナは6枚あった。

(4) アイルが切れたことに関して

我が部にある麻アイル 40m は唯一の使用できるアイルと  
思っていたが、購入は昭和38年11月で、全体的に劣化  
していたのではないかと?

他の原因として

(1) キック | ピナ終了後大野が直してあり、又下  
でも時間待ちで、今時間があった。

(2) キズ 入山前に摩擦し、なし

(3) 岩などにぶつかることなく加藤つらく

今後新たにアイルを購入するが、近々中、今で使われて  
いたアイルを全て資料にし、土木科の協力を得て、引き取り  
実験をしてアイルの寿命について検討していく。

● 脚-1

肩のこりや腰痛。うす、おびりか飛い麻という実。T3  
脚の痛みという実から判断して近くの11ヶ所にT4を  
配して、肩、肘、腕からみによる石巻港にありて  
足まわりの行動をよくみていなかつたという実において  
時に痛むことがある。

● 足のむくみ

足のむくみは全くなかつたが、草履のバネはまた通つていた。  
足のむくみは、流石は登攀不能となり、一着に足又側には  
むくみはあつた。

● 脚-2

脚-2 食欲も満足。しかし、入山の際に、くさす。

● 脚-3

脚-3 水野舞うらつ、ハツ峰天峰 A7-2 魚津高

山

脚-3 余り好まぬはなかつたが、入山前には

足むくみはあつた。

足むくみは、前見で感ずる実ほ、軽妙という感

脚-3 脚むくみは、毎日みえまわらぬ。



7) ミニ支所の維持

8) ガイル、三ツ道具の片手操作

9) 岩の用語の修得 (リッケ、カント、リス、チムニー、バッド、クラック、テラス、フェイス等)

10) 物見グレート2級までのラスト

### ○ 2年部員

1) ハーゲンモ打つ

2) アブミ、カラビナの操作

3) 3級までのトップの技術の修得

4) 荷(サブ)を背負ったの登攀

5) 完全装備(冬山装備)で2級までマスター

6) ルートファイナディング

7) ルート図を書く

### ○ 3年部員

1) ルート図のマスター

2) 2級までの下降

3) 下級生の指導

### ○ 実施状況

岩の崩れを、39年度の遭難以来、上級生が嫌悪し、下級生が正しく戻せられなかつた。今のリーダー級をみても岩登りは、身しごとというより、恐ろしい事を考へておるというあり。物見の肉も、このようにして要循環させ、現在の土級を1級、1級の向に、岩を好まないように育てあげて行く。

修得技術の状況は、長年山岳部物見係より詳しく説明される。

● 補 方針

指導事項を細部により徹底させるが、まず、その  
 要領、指導すべき立場の上級者が積極的にやるべき事。  
 一歩の若登りの実践が少なか、次第がある。若登りの  
 ときの方日は合ま"通り"あり、物見の余裕を使  
 用、新しい下レ"の"可拓、細部により注意  
 して、完全な基礎技術修得にさせる。

● 長野山岳部

● 組織

大常務	部長	顧問(教育、工学部各1名)
OB "	監督	コ-チ2名
山岳会	SAC	(委員4名) 置弁委員(2名)
		新人指導部員(1名)
山岳部	主幹	副主幹(2名)、コネクター(1名)
	会計	記録、準備、物見係等

● 運営の反省

前規約に基づき、主幹の行事その他提案を、リ-ガ会  
 員、部会、部会、承認を得る運営。  
 本年度は春山合宿に白馬→穂の縦走を企て、各人  
 の合宿をこのスタイルで、合宿中心に、各人、  
 春山合宿の意義を、下級生に十分浸透させるが、  
 -15-

かた、個性をわくわくはめらほし、山に対する意欲を研  
究せられたのは天賦であらう。又、キリスト教員としての  
こころの底に感もある為、最後に、仕事の手を引く計に  
あきらむる、その1つとせし一部の者にとり、極度にた  
がひの状態を回復するの如、やがての状態であらう。  
これもゴジニエーションがどういふものであらう。

### VII 今回の置難 S.A.C

昨年より教養部が不足し、本年及び、昨年の反省を  
かき、新人をS.A.Cの新人とみるに指導する。一  
方、上級生の方でも、今度の交遊を深め、急ぎに近づ  
き、ガールパーティーも出る状態にする。このうちが起  
こした置難をS.A.Cにどうとらえるかにおき、これが  
このS.A.Cの方向づけか、明ネエ水子のくはるゝか  
うらう。

この美のついでには、学生山岳会についても同様であらう。